

国土形成計画(第2次)と国土の長期展望

国土形成計画(第2次)

＜H27.8閣議決定＞

○国土の基本構想

対流促進型国土の形成

→重層的かつ強靱な「コンパクト+ネットワーク」により形成
東京一極集中の是正と東京圏の位置づけ

○政策の方向性

1. ローカルに輝き、グローバルに羽ばたく国土

(1) 個性ある地方の創生

- ① 小さな拠点の形成、コンパクトシティの形成、連携中枢都市圏
- ② 地域消費型産業の生産性向上、移輸出型産業の強化、イノベーション創出、業務機能の分散
- ③ 「二地域居住」等の推進、若者が住み続けられる環境の整備、集落生活の維持 等

(2) 活力ある大都市圏の整備

- ① 高度人材の誘引等による創造の場
- ② 災害に強い都市圏、高齢者の健康な暮らし
- ③ 子どもを産み育てる環境 等

(3) グローバルな活躍の拡大

- ① 企業の国際競争力強化、技術力強化
- ② 海外からの投資を呼び込む環境
- ③ 航空ネットワーク、物流網の構築
- ④ スーパーメガリージョンの形成
- ⑤ 観光立国の展開 等

2. 安全・安心と経済成長を支える国土の管理と国土基盤

(1) 災害に対し粘り強くしなやかな国土の構築

(2) 国土の適切な管理による安全・安心で持続可能な国土の形成

- ① 農地・森林の保全と多面的機能
- ② 生物多様性の確保、食料・エネルギー確保、地球温暖化対応
- ③ 洋上風力、環境保全、有人離島の持続的定住、低・未利用地の活用、景観
- ④ 選択的利用と管理コストの低減、国民参加の国土管理 等

(3) 国土基盤の維持・整備・活用

ストック効果の最大限発揮、「選択と集中」、戦略的メンテナンス、インフラビジネス 等

3. 国土づくりを支える参画と連携

(1) 地域を支える担い手の育成等

(2) 共助社会づくり

国土の長期展望(最終とりまとめ)

＜R3.6公表＞

『デジタルを前提とした国土の再構築』

○国土づくりの目標

『真の豊かさ』を実感できる国土

- ①安全・安心 ②自由・多様 ③快適・喜び ④対流・共生

○政策の方向性

1. 地域で安心して暮らし続けることを可能とし、地方への人の流れも生み出す、多彩な地域生活圏の形成【ローカル】

→人口10万人前後の圏域を一つの目安に、デジタルとリアルが融合する地域生活圏を維持・強化

- ① デジタル化の推進(手続きや業務のデジタル化、テレワーク推進 等)
- ② リアルの充実

(都市的機能の確保や持続的提供、コンパクト+ネットワークによる効率的な地域づくり 等)

- ③ デジタルとリアルを融合し暮らしに実装する取組

(対面と遠隔のベストミックスによる医療、教育等の提供、生活活動と移動・交通のシームレスな連携 等)

2. 国際競争力の向上に向けた産業構造への転換、大都市のリノベーション【グローバル】

- ① 新時代に対応した産業構造の転換

(イノベーションの創出と人材の確保、地域発のグローバル産業の育成 等)

- ② 大都市のリノベーション

- ③ スーパー・メガリージョンによる新たな価値の創出

3. 情報・交通ネットワークや人と土地・自然・社会のつながりの充実

- ① デジタル世界の交流の基盤である「情報通信ネットワーク」の強化

- ② リアル世界の交流の基盤である「交通ネットワーク」の充実

(ローカル・グローバルの各段階における充実、環境・防災・老朽化等への対応)

- ③ 人口減少に応じた国土の適正管理の推進(国土の管理構想)

- ④ 防災・減災、国土強靱化による「安全・安心な国土」の実現

- ⑤ 「2050年カーボンニュートラルの実現」に資する国土構造の構築

(エネルギーの地産地消 等)

- ⑥ 真の豊かさの実現に向けた「共生社会」の構築

(多様な人材の確保・育成 等)

第2次計画策定後の、我が国の持続可能性を脅かしかねない急激な状況の変化

(1) **新型コロナウイルス感染症の拡大による人類の危機**

(2) これにより、人の交流が困難になったことから、世界的に**デジタル革命**が急進展

(3) さらに、急激な**人口減少**(出生数の急低下と、それによる**少子高齢化**の前倒しが懸念)

(4) 一方、温暖化等により、風水害を中心とした**自然災害の激甚化・頻発化**

(5) **2050年カーボンニュートラル**は世界共通の課題(地球環境問題の切迫)